

# 1. IYONRUYKA<sup>1)</sup> (1) 子守歌

ITEKI CIS NO 泣かないで  
MOKOR MOKOR HANI ねむりなさいよ

平賀サダ 1956年2月5日録音

oho rr hao hao	1	ねんねんよ
oho rr hao hoy	2	おころりよ
iteki cis no	3	泣かないで
mokor mokor hani.	4	ねむりなさいよ.
eytasa ecis yak	5	あまり泣くと
wenkamuy patek	6	魔物にばかり
eeramasu. <sup>2)</sup>	7	好かれるよ.
oho rr hao hao	8	ねんねんよ
oho rr hao hoy	9	おころりよ
iresu sinta	10	ゆりかご
sinta kur[u] ka <sup>3)</sup>	11	ゆりかごの上に
kamuy oran na,	12	神様が降りるよ,
kamuy oinkar.	13	神様が見まもってくれるよ.
nispa ene kus ne na.	14	りっぱな人になるんだよ.
oho rr hao hoy	15	ねんねんよ

1) 平取から上流では ihonnokka, iyonnokka というが、下流地域では iyonruyka という。舌尖ふるえ音の1拍分を rr で表記することにする。

2) 直訳すると、「悪い神ばかりがお前を好く」

3) iresu sinta kurka «子育てのシンタ(ゆりかご)の上」。韻文ではよく、位置名詞や後置詞の前で、その前の名詞句の最後の名詞を行の頭にくり返す。

kuhawe wen hawe!<sup>1)</sup>

私の声は、悪いねえ！

(巻末に楽譜がある。p. 105 参照.)

この子守歌は、サダモさんが巡業の舞台の上で、毎日歌い演じていたものである。着物の中に人形を入れておぶい、舞台の上を歩き回りながら歌っていた。そのときアイヌのおんぶのしかたについて、男性古老の解説もあった。子守歌も、通常は、yaysamanena と同様、歌うたびごとに即興性が入り、少しずつ違ったところが出るものだが、これは、連日小学校で演技として歌っていたものだからであろう、毎日同じ歌詞、同じメロディーであった。

舞台の上での演技だからおんぶして歩きながら歌っていたが、本来は、ゆりかごをゆらしながら歌って子供をねかしつける歌である。ゆりかごは、木でつくられ、その上にぼろ布などがしかれ、四すみを天井のはりからひもでつるされている。赤ん坊が泣くと、それをゆらして、こういう子守歌を歌ったものだという。

3 拍子の歌である。しかし 3 拍子が 2 個ずつ組み合わさっているので、田村はこれを 6 拍子にとった。

### 〔類歌〕

No. 25 Iyonruiya (2) を参照。同じサダモさんが歌っているテープが、門別町教育委員会に保存されている〔門別町郷土史研究会『沙流アイヌの歌謡』No. 62(8-24)〕。だいたい同じだが、ところどころちがっている。姉のワテケさんが歌っているテープ〔同 No. 7(1-7)〕にも同じような歌がある。また日本放送協会編『アイヌ伝統音楽』No. 298 (p. 290) に似たような歌が収められている。

1) サダモさんはかぜをひいてのどをいため、声がかれていたが、せっかくだからと言って、これと No. 3 Yaysamanena (2) の 2 曲を歌ってくれた。この子守歌を最初に歌ったので、No. 3 Yaysamanena (2) よりもなおかすれ声である。